

会議要録

会議名	第2回 八王子市消費生活審議会	
日時	平成25年2月4日(月) 午後2時～午後4時	
場所	生涯学習センター第2学習室	
出席者氏名	委員	和田清美委員(会長)、鈴木麗加委員(副会長)、石見光夫委員、 武石誠委員、堂坂日出夫委員、深沢靖彦委員、梶原寸真子委員、 坂本光弘委員、高橋巍委員
	事務局	荒木紀行生活安全部長、山崎寿子消費者行政担当主幹 福田秀之主査、田村隆史主任
欠席者氏名	平塚忠勇委員	
議題	(1) 八王子市消費生活基本計画の検証・評価について (2) その他	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	0名	
配付資料名	<当日配付資料> ○第1回消費生活審議会会議要録 <事前配付資料> ○平成24年度消費生活基本計画の実施状況	
会議の内容	<p>事務局：定刻を過ぎましたので、始めさせていただきたいと思ひます。まず審議に入る前に荒木生活安全部長よりご挨拶をお願いいたします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>荒木部長挨拶</p> </div> <p>事務局：ありがとうございます。それでは審議に移っていただきたいと思います。ここからは和田会長に進行をお願いいたします。</p> <p>和田会長：平成24年度第2回の消費生活審議会を開催させていただきます。規定を満たす委員の出席がありますので本会は成立するものとします。それでは、資料の説明をお願いいたします。</p> <p>【事務局説明】</p> <p>事務局：本日の資料につきましては、A4の式次第が1枚、事前にお配りしています。八王子市消費生活基本計画の実施状況については、お忘れの場合は事務局にお声掛けください。それと第1回の会議要録を委員の皆様へ送付させていただいて、その後修正のお電話いただいた部分は修正をかけております。特に他の委員さんからは修正の依頼はございませんでしたので、2月1日現在で修正をしております。また何かあればお声かけいただければと思</p>	

います。以上です。

和田会長： はい。配布資料についてはよろしいでしょうか。前回の会議要録については2月1日までにご連絡いただいた箇所については修正をしているということですが、見ていただいて、何か内容についてありますでしょうか。なければこの第1回会議要録を決定したいと思います。署名をするわけですけれども、第1回審議会で決定いたしましたとおり、今回梶原委員にお願いいたします。後ほどでよろしいですか。

事務局： 準備はできていますので、会議が終わった後程お願いいたします。

■議題(1)①について

和田会長： それでは本日の議事に入らせていただきます。本日も会議要録作成のため、ご自分の名前を発言の前に言っていただければと思います。では議題(1)八王子市消費生活基本計画の検証・評価について、事務局より説明をお願いします。

〔事務局説明〕

山崎主幹： センター主幹の山崎です。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。多少前回との繰り返しになるかもしれませんが、平成23年12月に皆様からご答申いただきまして消費生活基本計画のほうを策定いたしましたところでございますが、その中で、計画については来年検証・評価を行いその結果を公表しますとうたっておりますことから、今年度につきましてはご答申いただいた内容に付随してということで、その評価・検証の方法について皆様からご意見をいただいているところでございます。第1回につきましては、評価・検証が初めてなものですから、仙台市の先行事例をもとに皆様にご提示いたしましたところ、様々なご意見をいただきまして、それだけではまとまらないだろうということで、さらにご意見を深めていただくということで本日は再度お集まりいただきました。つきましては前回いただいたご意見というものを今回まとめましてあらかじめお送りさせていただいておりますので、そちらを振り返りながら、その意見を踏まえて前回お送りしたものを新たにこういう形に変えましたというご説明をさせていただいた後、皆様からご意見をいただこうと思っております。

まず、事前資料のA4の1枚ものの概略説明と、あわせてこのA3の下向き矢印があるものも見えていただければ分かりやすいかと思えます。前回、このA3の下向き矢印のあるものの上のほうのパターンでこのように評価をさせていただきたいということでご提示させていただきましたところ、次のようなご指摘がありました。大きく分けて2つかと思います。まず一つは評価の表し方についてということです。その上のほうの表、真ん中よりやや左側にあります「24年度上半期実施状況」その中に「実施済み」「着手」「未着手」という評価がございます。これは3段階の評価をすることで市民の方がパッと見てわかりやすいことを考慮したつもりではあったのですが、委員の皆様からはまず「実施済み」「着手」「未着手」という言葉の定義があいまいではないかというようなご意見をいただきました。また当初の計画が明らかになればそれに対して「実施済み」などと言えるけれども、計画が示されていないのでは何を持って「実施済み」というのか、またあるいは年度で完結しない常に継続して行っていくような事業についてはどういう風に評価するのかというようなご指摘をいただきました。わかりやすさを考慮したつもりが、ご意見をいただく中で逆に解釈の差異などが明らかになりました。また2点目ですが、評価するための計画についてということなのですが、先ほども当初の計画があつてこそ「実施済み」という評価もできる、というご意見をいただきました。その当初の計画につき

まして、例えば事業の最初に計画があるはずではないか、計画があつてこそその評価なので、それがないと感覚で評価していることにならないか、また例えば評価はおおよそ主観的であつてもそれがなぜこういう評価になつたか説明できるようなおおもとの計画を作成しておくことできちり説明がつけられるのではないか、また評価というのはあくまでも計画に対する達成率で表現するべきではないかというような、年度当初、各所管の各事業で計画をちゃんと明記することがより良い客観的な評価につながるのではないか、というようなご意見をいただきました。また一方でもし計画がないのであれば、こういう反応があつた、こういう効果があつたというような評価方法もあるのではないかというようなご意見も頂きました。そのご意見を受けまして、こちらでも議論したところではありますが、この消費生活基本計画というのは各所管の事業を体系的に集めた計画でありますので、消費生活の推進のための所管の事業ではないという性質をもっているところから、この所管のこの事業を消費生活のためにこれだけやるという計画を立てるのがやはり少し難しいのではないかというような内部での意見もありました。皆様方の意見とその内部の意見を踏まえまして、この A3 大きな表の矢印の下ですね、下の表のほうに、少し修正をかせさせていただきますところでございます。本日はこの矢印の下のところの表による評価についていかがかということでご意見をいただければと思います。

簡単に違いについてご説明をさせていただきたいと思つます。また矢印の上、先ほども言いましたやや左寄りの「上半期実施状況」「実施状況」「着手」「未着手」という○をつける表というのは削除しました。それで矢印の下のほうでは真ん中よりやや右寄り、「検証・評価」という欄を設けまして、それで以前は「実施状況」「着手」「未着手」というのは各所管、担当課が評価するという形をとっておりましたが、この「検証・評価」につきましては、各所管の取り組み内容・実施状況を踏まえて消費生活センターが消費者行政施策に照らし合わせる中でどのような効果があつたのかというような検証・評価をするというような着手・未着手の細かい段階を削りまして大きな枠として右側のほうに持ってきました。なぜ右側かというのはまた後でご説明させていただきます。続きまして、上のほうの表でいきますと、前回は「24 年度上半期取組実績・下半期取組予定」という形で上げさせていただきましたが、これは前回の場合イレギュラーで、本来は年度が終わってから各所管に 24 年度どういったことをやりましたかと照会をかけるところなんです、こちらの形を決めるにあたって年度途中で照会したものですから、混乱を防ぐために上半期と下半期に便宜上わけまして、上半期は実績としてどうでしたか、下半期は予定としてどうですか、というふうに 2 段階に分けて紹介をかけたので、かけた照会そのままに 2 列に分けて記載をさせていただいたところでございます。ただ実際に来年度以降、年度でまとめて照会するとすると、あえて上半期下半期分ける必要がないのではないかということから、矢印の下側、主な計画の取り組みの右側に 24 年度実施状況ということで 1 列にして表記をいたしました。評価方法を変えるというよりは、便宜的に 1 列にしたものですので、今回この表でまとめて、前回お配りしたものを今回の表に新しく移し替えたものを一緒にお送りしていますが、便宜的に上半期のぶんだけの実績を一応添付しまして 24 年度実施状況というところに当てはめております。ですから下半期の取り組みにつきましては割愛させていただいたところでございます。先日も深沢委員のあきんど祭りに下半期事業としてセンターのチラシを撒かせていただいたり、そういうことはしているのですが、便宜上、下半期の事業は今回載せてはおりません。ここで言いたかったのは、上半期下半期に分けず来年度以降実際の評価になつたときには、24 年度の実施事業ということで一本で各所管に表記をしていただ

く、ということになります。変更ではございませんが、そこはご注意ください。続きまして矢印より上の表の中で、変わったところは一番右側から2つ目「取り組みにあたっての課題・問題点」ときましてこれを「24年度の実施状況」の右に移しました。各所管で課題・問題点を記載していた際に、自己評価に代わるようなPRポイントなど、例えばうちはこんなことをしました、というようなことがあれば記載していただくようにタイトルにつきましても「取り組みにあたっての課題・問題点など」ではなく、「取り組み実績におけるPRや今後の課題・問題点など」という風に変えて左側のほうに移しました。この辺は今も申し上げたとおり、自己評価しなくなった分、ここで所管からのコメントを何か書いていただければいいのかなと思ってこの欄を実施状況のすぐ右隣に移したものでございます。なお前回の審議会でのご意見の中で基本計画の達成に関係ない記載、所管によっては、うちの所管でやっているにあたってこんな問題点があります、という問題点がまるで消費生活とは関係のないような記載があったことも見受けられ、ご指摘を受けました。これについてはこの表の中では解決はつかなかったのですが、各所管に照会をするときにあくまでも消費生活との関連の中での課題・問題点などを取り上げていただくように、という十分な説明を付け加えることで解決したいと考えています。場合によっては所管からできたものをそのまま載せておいてもらって、改めてこれはどういったことで消費生活と関係がありますか、というヒアリングを行う中でその辺は解決していきたいという風に考えております。それが左に移りました。

矢印の下に移ります。今のような状況から、「24年度実施状況」があり、「取り組みや実施におけるPRや今後の課題・問題点」の欄があり、「経費」の欄があり、「検証・評価」の欄があり、ということで、この「検証・評価」の欄につきましても、事業ごとに線を引くことなく、施策の方向ごとに欄を設けました。これはやはり委員さんの中からも事業ごとに評価すべきかというような意見もありましたものですから、それらを踏まえて検証・評価は一つ一つの事業の検証・評価を行うのではなくて、それぞれの事業の実施状況を踏まえた上で、施策の方向と照らし合わせて概略的に検証・評価を、消費生活センターで文章によって記載をするというような形に変えました。そこが大きな変更点かと思えます。以上が前回皆様からいただいた意見をもとに、表を組み替えたもののご説明です。とても分かりにくかったと思うのですが、申し訳ありませんでした。こういった表をまとめるにあたりまして、それ以外にも例えば真ん中の欄に「取り組みに関する経費」という欄がございます。こちらは狭い意味での消費生活にかかわる経費ではなくて、他の所管が消費生活と関わるような事業をやった、そういった経緯も盛り込めればという考えではございますが、なにぶん人件費というものがここでは計上されてこないことから誤解が生じやすいのではないかという意見もあり、誤解を招くようであればあえて経費というこの欄は設けなくてもよいのかなという解釈もありました。また、もう一つ検証・評価の隣の欄、「25年度以降の取り組み予定」という欄なのですが、こちらあくまでも24年度なら24年度の評価をするのはやはりその実績、あるいは各課における問題点・課題・PRポイントなどだけを参考にして十分検証・評価ができるのであって、25年度以降の取り組み予定というのは、この評価には直接関係ないのではないか、この欄はなくてもよいのではないかというような意見もございました。それらを踏まえた中でこの表に関しての意見を頂ければという風に思っております。以上が、この評価にかかるとの表についての前回からのご意見、またそのご意見を踏まえた変更点についてです。

それについてご意見をいただくというのが一点。それともう一点、実際に評価をする中で結局各所管の自己評価はなくなり、消費生活セン

ターが検証・評価をいたします。そういったものをご報告する中で、審議会の中でもやはり未着手の事業などについて、審議会として定義をしていくべきではないかというご意見もいただいておりますので、同じく23年の12月にいただいた答申の関連するものとして、毎年、前年度の事業について各所管から出てきた事業を消費生活センターのほうで評価したもの、それについて審議会のほうで検証・評価していただいて、ご意見もいただくというような形をとりたいと思いますので、それについても審議会としての関わり方についてご意見をいただければという風に考えております。長くなりましたが、ご意見をいただきたい点につきましては以上になります。

和田会長： ありがとうございます。前回かなりたくさんのご意見が出されまして、かなり課題が多いという印象をもちましたけれども、今日前回の議論を整理していただいてそれを踏まえて新たな評価の方法ができています。いまのご説明にありましてとおりに変更点を含めて、評価の方法についてよろしいかということについてが1点、それから25年度以降の取り組み状況について、この2点。それから審議会が事務局からの評価について議論をし、一定の提言をする、というのはいかがか、という計3点。いかがでしょうか。アランダムでもけっこうですし、まずは前回の審議会もありましたし、表の変更点、特に評価、実施済みとか着手、未着手なんですけれども、方法としてよろしいか、ということについて。

石見委員： 一番簡単な24年度の予算ですが、これは書き込みがあるもののほうが少ないので、あった方がいいのか削除した方がいいのか、どうでしょう？ それと各課でもこれだけに使う予算としているわけではなくて何かの中の一部でしょうか？これははっきりと分かるのですか？

山崎主幹： 分からないと思いますね。

石見委員： はっきりと分かればいいんだろうけど、あんまり記入されていないところが多いとかえって何かね。

梶原委員： 人件費もあいまいですし。

石見委員： 出しやすいものと出しにくいものもあるんでしょうけど。

深沢委員： 今の問題ですけど、その通りで、1ページの1-1(1)の4産業政策課、38076000円という数字が出ています。私はこれに実際関係しております、商店街のいろいろな在り方がある中で、本当に一部に啓蒙活動とかですね、そういうのに経費を使っておるわけでございまして、金額が独り歩きしてきてですね、非常に私もこれを見たときに、何なんだろうなど。これは目的が全然違うものなんですよね。それで考え方としてもこうやって表になっているとほんとするんですけども、24年度消費生活基本計画の実施状況ということなんですけれども、大変失礼なんですけど、今までの中でいわゆる商店街連合会といたしまして、こういう動きはしてこなかったというのが事実でございまして、たまたま私もこの会に出させていただきましたので、先ほど主幹がおっしゃられるように、1月23日に私どものイベントとしまして、午前午後それぞれ800人のお客様を招待した中で消費生活のチラシをお配りしたいということで協力を求めまして、来た方々がご高齢の方が多かったので、家に帰ったらチラシをご覧くださいというようなことの中でやりましたが、これからの私どもの取り組みとしましてはチラシとかそういうものをお配りすることはしますけれども、産業政策課が38076000円という数字は全然違った形であるという風に私は認識しております。ですから、これに関わる費用がどうだという問題ではないと思います。

和田会長： 経費については削除してもよろしいのではないかと二人からの意見が出ました。

鈴木副会長： 逆に、例えば今ご指摘の38076000円とここに明記されているのはどうしてでしょうか？

深沢委員： これはですね、東京都の新元気を出せという補助金でございまして、

これをもとにイベントとかそういうものを行っていて、その総額がこれだと。

鈴木副会長： じゃあこのイベントだけではなくて、他の様々なイベントも含めた予算？

深沢委員： ですから、市役所の中での所管の捉え方が、もう少しこういうような統計をとるもので、という。ここの審議会もそうですよね。実施済みとか着手で問題ありとかいろいろあったわけですよね。でも市の中でもこれに対しての出し方というものがお分かりいただいてないような気がするってことですよね。

鈴木副会長： そうしますと、これはない方がよろしいような。誤解を招いてしまう。

深沢委員： そう思います。第三者が見たときに何これ、と。金額も金額ですし。

鈴木副会長： そうですね、実施回数 24 回と書いてあるし、割ってしまいますよね。

荒木部長： まさしくね、これ私も言ってたんですよと。これをやるなら聞き方があるだろうと言ったんです。統一した、たとえば人件費とかここにかかった経費はこうなんだよと明確に出させるのかどうなのか。そうではなくて、各所管というのはいろいろな事業をやっていて。前回の議事要録を見させていただいた中では、計画というのはいないところもある。ないこの根拠というのを出させるというのはまた難しいものである。ないんだけどもこういった施策をやりました、という事実は書けると思うんですよ。それに対して我々が評価をする、という方がよりすっきりするのではないかなと思う。もっとこれが成熟していったら庁内の中でこの計画というのが浸透していく中でそういった予算もきちんとやっていくんですよとなれば、それは載せてもいいんだらうけれども、最初の中では慎重かつもっとないところのものをどうやっていくのかということからすると、今日の審議会にかけてぜひ議論してもらいたいというところを私は言わせていただきたい。

深沢委員： 矢印の紙で、下の表に商工会議所、商店会と連携し、悪質な事業者に対する指導の徹底を図りますというところがあって上半期下半期というのがありますけれども、今回は載っていない。実際にですね、1 月 23 日に午前午後それぞれ 800 枚配った時にチラシを仮に作ったと、単純に言うと、その時に初めて、これに係る経費が出てくるのでは？ 東京都からチラシが来たのか分かりませんが、自分たちで作って初めて経費が出てくるのかなと思う。すると他の出し方が全然違った形で出てきてしまっているというのがある。

堂坂委員： 今のお話と同じなのですが、実際には人件費は含まれていないということで、単なる予算として上がってきたものが数値として出ているというお話ですが、そういうことなんでしょうか？ そうしますと、ただ一つのやり方としては、深沢委員がおっしゃったように、実施したことによって遣ったお金だけを抜き出して書くっていうのも一つの手ではあると思うんですよね。ただそれはここに書くほどのものなのかということも一つ疑問だと思いますんで、人件費は〇〇(38 分 57 秒)、実際に遣ったものはいくら遣ったか後追いで載せる。そういう風になってきますから、タイトルの書き方をちょっと変えて、実施してはつきりこの事業に遣ったと分かるものだけを書くというやり方もあるかとは思いますが。あまりにも小さい数字になってしまう気もしますので。

坂本委員： あくまでも予算、金額ですけども、検証・評価の材料になるのかという判断をしたときに、如何ほどのものなのかという風に思うんですよ。お金をかけたからいい取り組み、実施ができたということでもないでしょうし、予算が少なくても良い取り組みは多々あるでしょうし。という観点からするとこの項目は初年度、25 年度はいらないのではないかと思います。また必要が出てきたら 25 年度以降に付け加えれば良いことであると私は思います。

石見委員：これから検証・評価されるときに消費生活センターでそれを把握されていてそれで評価されたいんじゃないですか。予算を使っているけどあんまりやっていないとか、無報酬なのによくやっているとか、そういう評価の項目としてやられたらいいのではないかなど。どうも金額でやってしまうと先ほどもおっしゃったように色々不公平なことも起こりますよね。

和田会長：はい、それでは皆さんからのご意見は削除、紛らわしいところはとっておいた方がよろしいですよ？では削除ということで解決ということで、他にはいかがでしょうか？変更点については枠組み自体はこれでよろしいですかね？

武石委員：変更点の方の「取り組み実績における PR や今後の課題・問題点」というところが一つのテーマというか枠組みで記載されているのですが、例えば 1/7 ページの一番下のところなど、「特になし」というのがあるのですけれども、それは実績における PR、それから今後の課題・問題点どちらも特になしなのか、それとも特に PR するような実績がなかったのか、問題点・実績はどうなのかとかの区分ができないということで、基本的には取り組み実績における PR というのは実際の計画に対して消費生活に関連する効果・対応策、こんなことをやりましたという所管課の成果物等あればそこに記載する、それからこういう効果があった、期待できる、というものがあれば記載して更に今後の取り組み課題はこんなものがありますよという風に 2 つに分けた方がよろしいのではないかというのと、あと PR という書き方ではなく、成果物とか期待された効果とか、特に所管から記載するところだと思いますので、取り組み計画が消費生活の基本計画の中で所管課としてどういう問題意識をもってどういう成果ができたかというのを仮定していただくという意味では、PR のところを所管課にもうちょっとしっかり書いてもらうような形にした方がより消費生活の施策というのを各所管課で問題意識を持ってやってもらうのにはいいんじゃないかなと思いました。

和田会長：確かに記入する際には 2 つの質問の内容を組んでしまっているの、分かりにくいかもしれませんね。これは特に取り組み実績における PR というのを書かれておられるのは、この点について聞いてみたいという強いところがあるのでしょうか？

山崎主幹：そうですね、自己評価という欄がなくなりましたので。実績だけを書いていただく中で、書き方や内容量がバラバラであったりというご意見もあったので、その辺を整理するためにも、ただ単に実施状況だけを隣の欄に書いていただいて、それプラス課題や問題点だけでない部分についても何か文章で書いていただけたらという思いがありまして、PR という言葉が分かりにくい部分はあるかもしれないのですが、付け加えさせていただいたところでございます。

和田会長：取り組み実績における PR を聞いてみたいというところですかね、この文章から読み取れるのは。先ほどの武石委員がおっしゃるように、実績というのは事業として特に消費生活に関わるどのような成果が得られたのか、というような理解、PR も含めて。PR だけ出しちゃうと、それらで一つの効果というか、これだとそれ以外のことについてはどうなの、ということにもなりますよね。そうすると PR については特になしと。今後の課題・問題点について、特になしというのはその姿勢を問われているのではないのと。

山崎主幹：おそらく「課題・問題点」だけだと、順調に進んでいる認識があれば特になしという記載になってしまうかもしれませんが、それだけでなくプラス課題とか問題はないけどこんなつもりでやったとか、こんなことができたみたいなものが、特にあれば書いていただく、という趣旨があったところですよ。

石見委員：24 年度の実施状況なんか PR を本当は書いてもらって、それを踏ま

えて 25 年度につなぐと、流れとしてはそれがすっきりすると思う。1 ページの下の方、家庭用品表示の立ち入り検査、指導を行いますというのがありますけれども、24 年度は準備をしました、証明書の作成をしました、と。分かったのはあまり立ち入り検査のノウハウがありませんので、やっぱり新体制で研修する必要があります。それで 25 年度はそれを克服していよいよやりますよと。こういう風に見ると非常にわかりやすいのではないかという気がしますけど。

堂坂委員： 結局消費生活センター以外のところに対して書き方に注文をつけるということになりますので、そうであれば相手方への投げかけ方というのをちょっと形を変えないといけないという風になりますよね。もう少し具体的に書いていただくようにしないと、今までのように他所管から回答を求めても同じようなものしか返ってこないと思いますので。その辺でもし皆さんがおっしゃったような形で記載するのであれば、質問状の形をもう少しここに載せられるものを引き出すような書き方をさせていただかないといけなくなると思う。それをお願いしたほうがいいような気が私はしています。

和田会長： 今のご発言の意図は、二つが入っているから二分化して PR だけではなくて成果あるいは事業に対してどのような評価をしているかということも書いていただくという、先ほども言ったように「課題・問題点」で「特になし」というような問題点はないんだよというときに「特になし」なのではないか。それをうまく崩して何らかの先につながるような問題点を導き出すというような上手いワーディングがあればね。

鈴木副会長： やっぱり初年度ですし、今回はわかりやすくシンプルにするよりは、文章で説明をするという方向性にしたわけですから、課題についてももう少し詳しく具体的に書いてもらうようにした方がよいのでは？また外に出すものですから、市民の皆様たちが見ても「特になし」というのはいかにも体裁が悪いですから、同じ書くのであれば例えば 1 ページ目の下から 3 番目では、「特になし」だが「引き続き制度の普及啓発や利用相談の拡充に努めていく」という書き方にしていて、右側のほうでは要するに今年と同じようなことをやるというのが書かれていますので、さきほど何人かの方がおっしゃったように、つながっていく流れがありますよね？書きぶりで感じが変わるのはあまり良くないのではないかとか、下から 2 番目のところも「食品流通の広域化による食品事故等の拡大化」「監視指導の困難さ」となっているのですが、だから何が課題になっているのがよく分からないというか、それは問題点を指摘しているだけであってこういった問題があると食品検査や監視指導がどういふ風にしていくべきであるとか、こういう風にする必要性があるとか、丁寧なところはとて丁寧を書いてあると分かりますよね？参加者が高齢の方が多いので若者に参加してもらいたいとか。やはり丁寧に書いてもらわないと体裁が良くないと言うか、今後の課題がないときはないと思うんですよね。特になしと書いてある他では、取り組みの横線につながっているからかもしれないですが、空欄が目立ちますよね。

山崎主幹： 今回は急遽、こちらも固まっていなかった段階で各所管に出しましたので、本当に投げかけて問い合わせがあったところには説明しましたけど、ないところはそのまま上がってきたものをとりあえず載せましたので、先ほど意見もありましたように、今後実施していく中では項目をどうするかは別として、例えば「課題・問題点」というのを投げかけた時には、分かるように具体的に説明をしたり、空欄で返ってきたらやりとりをするなりして、なるべくやり取りをすることが所管にとっても他の事業と消費生活というのはこういう関わりがあるんですよというのをヒアリングしつつ伝えるような形にもつながっていくと思いますので。今回はたまたま空欄が多かったという、そのまま投げかければ空欄が多いんだなということが実証できたかと思いますので、本番でやるときにはそういっ

た空欄がないような工夫というのが必要なんだというのが思ったところでございます。

深沢委員： 大変失礼かもしれないけれども、思いが全然伝わっていないというか、相手方は俺たちはこういうことをやったんだということを載せているだけで、そうじゃないんじゃないの、というのが我々としてはあって。皆さん大変でしょうけれども、それぞれの所管がこういう取り組みをやってきたというところが大体どこの部でどこの課だというのは分かってきたようですので、今後はやはり自分たちが消費者のこれからの対応に対して皆さん方がどういうことに取り組んでいただいているのか、それを示していただくと共に今年度はどうだったんでしょうね、とかヒアリングで聞いて来年度はどうなんだろうというのが載れば我々も理解できるけれど、課によっては全然違ったものが出てきてしまっている。

荒木部長： 役所は今までの「実施済み」「着手」「未着手」というのに慣れすぎているんです。これを変えたとすると、これは抗弁でそのまま載せただけですから、変えたときには当然逆にこちら側の作業が非常に大変になります。なぜかと言うと、ヒアリングしなければ書けません。それからこの表を確認したいのですけれど、私がこれ見たときには、一番右の担当課が全部書くものだと思うんです。でも違うんですね。この計画があって、実施状況それから問題点というのは所管課が書くわけですから。そうですね？そして検証と評価というのがセンターなんですよ。そういう一つの方向性となるとやっぱりここまでは担当課が書いたんだと分かるようにしておかないと。これ 1 行で右側に消費生活センターとなると全部消費生活センターが書いたみたいですよ。

鈴木副会長： ですから、取り組み実績における PR の欄というのは、所管が自己評価を書くようなつもりでアピールするようにつもりで詳しく書いていただきたいと思うんです。審議会として評価したり答申したりするに当たって、やはり所管の熱意を踏まえて前向きに評価してあげたいとかありますので。

荒木部長： ヒアリングは絶対必要だと思うんです。そうしないと書けませんし、意図が分からないですよ。その作業は絶対うちのほうに返ってくる、そういうつもりでここを書いていく。

鈴木副会長： やっぱり未着手のやつを今回やめて良かったなと思いましたが、文章で書いたほうが誤魔化しようがないですよ。全然はつきりしてきますので、細かいところは調整が必要だとしても、前のものは分かりやすいようで分かりにくかったので、こちらのほうが良いんじゃないかなと今回思いました。

坂本委員： 幸いにして、予算のところがなくなりますから枠も広がりますし。

和田会長： そして皆さんのご意見は、やはり自己評価を、成果と、当初の意図というか目標と、それに対する実績と、どういう風に自分たちがやったのかということがこの中に書かれているというようなもの。是非 PR や保護活動についてセンターとしては聞きたいということであれば、これはそれで活かしていただいてということによろしいですかね。他にはいかがでしょうか。

武石委員： ちょっと確認なんですけど、担当課が記載するというのは、計画に対する「平成 24 年度実施状況」それから「課題・問題点」それから「25 年度以降の取り組み予定」の 3 つですか。

山崎主幹： そうですね、この表の中ではこの 3 つですね。ただ先ほど少し話にあったように、「25 年度以降の取り組み予定」というのは載せるべきかどうかは改めて。

武石委員： その場合ですね、先ほど荒木部長もおっしゃったとおり、「担当課」を逆に計画の隣に持ってきてですね、ここに担当課というのを明示して担当課の欄という形で「24 年度実施状況」と「担当課評価」という形で PR も含めた形にし、「担当課評価」の中に実績、それから成果物、などと

いう形でカッコ書きしておけば何々を実施したとか何々のチラシを配ったとか書けるかなど。それからそういう実績がないところは計画に対してこういうような活動を実施し、今後こういうような形につなげていきたいというような期待とかを書ける「自己評価欄」というのと、「担当課の今後の問題・課題」というのと。「担当課」というのを上に設けてその下に「24年度実施状況」「自己評価」「今後の検討課題」という風ですね、枠組みにし、それで「消費生活センター検証・評価」という形に並べていくと見た目が非常にすっきりするし、担当課もそのような記載で自分のところが前面に出てくると、書きぶりをよくしないとまずいなということになるし、他にもっと詳しく書いているところがあると、やはり自分のところも書かないとまずいなというようなことで自己牽制機能も出てくるし、問題意識も共有できるのではないかなど。書き方はそれから担当課に出すときにするほうがわかりやすいかなという風に。

和田会長： おっしゃるとおりですよ。担当課というのが最後に来ていて、消費生活センターが担当課のところもあるから、自己点検していただいて。今のかなり良いですよ。さっき言った実績・成果物・期待がありますし。いかがでしょうか。では、確認をしていただいて。

山崎主幹： あと、25年度以降の取り組み予定というのも必要ということによろしいでしょうか？

和田会長： 流れで言うと、検証・評価が最後に来て取り組みも入れるということになるのかな？

山崎主幹： 欄として単独で設ける、あるいは一緒にしてしまうか？

和田会長： 一緒にいいんじゃないですか？今の流れで、最初に担当課が明示されて、担当課が記載すべき部分ということで取り組み予定も含み、一番後ろに検証・評価を消費生活センターが行うということにすればすっきりするんじゃないですか？

武石委員： 予算の欄に25年度のやつを入れればそれでいいわけですよ。

山崎主幹： 表のほうについてはそういう形をとって、もう一件、この表そのものは消費生活センターが各所管に記載していただいた事項を踏まえて聞き取りなどを経た後に検証・評価をするというこれで一表にまとめるということでこれで審議会にお示しをしてその評価・検証を含めた中でご意見をいただくという形で。

和田会長： そうですね。審議会の意見は全体を総括するようなものをつけると、そういうことですよ。

山崎主幹： そうですね。以前諮問をして答申をして基本計画のあり方についてご答申をいただきましたので、それに付随することとして23年度は基本計画のあり方について諮問に対してご答申をいただいた、24年度については審議会としては評価方法についてご意見をいただいたと、それ以降は各年度ごとに例えば25年度であれば24年度の消費生活基本計画の実施状況についてご意見をいただくと。そういった一番最初の諮問が生きていく中で基本計画について毎年ご意見を頂戴すると、そういった仕組みとか考え方にさせていただくということによろしいでしょうか。

和田会長： 「担当課」を一番前に持ってきて、現在の経費の欄のところ「25年度以降の取り組み予定」を載せる。そして「取り組み実績におけるPRや今後の課題・問題点など」周りを変えて実績・成果物・期待などを入れていただく。そして全部ヒアリングするのなかなか大変だと思うのでできるだけ書いていただいて、もしあまりにもというものがあたらさらにヒアリングをするという2ターン方式でいったほうがいいんじゃないかと思います。フォーマットを作ってください、こういうことでご了承いただきましたので、今年度はこれについては今回で終わりということになるんじゃないかな。今日の議論をまとめていただいて、それぞれに整理したものを送っていただくとご承認いただくということによろしいんじゃないかな。

ないでしょうか、あとは微調整の問題だと思いますので。

山崎主幹： 会議録をお送りしますので、今日いただいたご意見を基にこういう形にしましたということで、お送りさせていただきたいと思います。

鈴木副会長： そうするともう一度所管に投げかけて書き直していただくんですよね？

山崎主幹： これは 24 年度の試しでやってみましたので、25 年度になって固まった表で各所管課に 24 年度についての実績を改めて書き直してもらいます。今回まだ網羅できていませんので。

鈴木副会長： 実施状況の中身も、参加人数が書いてあるところがあれば書いていなかったり、できればそこは書いていただきたい。

山崎主幹： 先ほど会長がおっしゃったとおり、できるだけ丁寧に照会をかけて書いていただけたところは書いていただいて、それでもうまくこちらの意図が伝わっていないなというところにはお話をしながらなるべく皆足込みが揃うような形でというのを最終的に目指せばいいかなと思っています。

和田会長： もしかしたら記入の仕方みたいなものを一つつけるのもいいんじゃないんですかね。ここに入れ込むのはちょっと大変ですからね。

堂坂委員： 重複して言いますけれども、前回も出ましたが、例えば「随時」とかいうところは直していただくということになってましたよね？もっと具体的な数字を入れていただくとか。また消費生活センターにしても色々と実施されてますので、月を入れるとかより具体的な表現をとっていただいたほうが、説得力があつてよいですよ。より具体化したものを書いてもらう風に進めていただきたいと思います。

坂本委員： 記述要領みたいなものをつくって、例えばイベントだったら 24 年度の実施状況にあるように、開催場所はどこで、出展者が何団体で来場者が何名で、という風にこのくらいは書いてくださいねという要領をつくったほうがいいでしょうね。

山崎主幹： 様々な形の事業があるのでなかなかかもしれませんが、基本は簡潔にわかりやすくということですかね。

和田会長： わかりやすくと言うよりも、やっぱり具体的にということ。

鈴木副会長： せっかく文章型にしたので、熱意が伝わるような文章を是非。各所管も頑張っておやりになっているんでしょうから、なかなか難しいとは思いますが、読んでみるとこの所管は頑張っているなとかすぐにわかる場所もあるので。そこらへんは損してはいけないと思うんです。

堂坂委員： 右のほうの健康福祉総務課には、ここには 25 年度年 2 回なんていう具体的な数値が入っているわけですね。実際平成 24 年度の実施状況を見ると回数だけが記入されている。せっかくここまで書くのでしたら、年 2 回の計画に対して 1 回実施したとか、そういう具体的な数値を入れられると真剣に取り組んでいる姿勢が見えてくるんじゃないかなと。そこもお願いしたい。

和田会長： 数値化できるものはしておいたほうがわかりやすいですよ。客観的であるし。

石見委員： なかなか書き方が難しいんですよ。例えば効果的な連携が課題というのが 3 つぐらい出てきていますが、効果的な連携が消費生活センターの課題といわれても、人が少ないのでなかなか難しい。そういったものが課題として書かれている気がします。

坂本委員： 担当課が前に出てくるから充実した内容になるんじゃないかなと。ご説明がなかったように思うのですが、施策の方向、計画、計画に対する実施状況のところでの主な取り組みが計画ということに置き換わっていますが、これは何か意味合いがあるんですか？

山崎主幹： 文章的に強化を図ります、あるいは取り組みますのような文言もあります。確かに具体的な何々を何回やりますというようなところは、その所管でなければわからないところではありますが、行動計画の主な取

り組みと載せたものが実施する上での計画というか目安になるのではないかということで、今回主な取り組みがそのまま計画的な位置づけになってその計画に対して何々を何回やったというような実施状況につながるという、パッと見たときに確かに計画があってこそその進捗状況というのがありますので、主な取り組みというのが大きな概念として計画として捉えられるのではないかということで記載させていただいたところで

坂本委員： はい、わかりました。

和田会長： 前回は議論があって、やはり事業を展開していくには計画に基づいてなされているのであるから、それをこの主な取り組みに書くのですね？主な取り組みって実際事業ですね？計画でいいんですかね？

福田主査： 補足なんですけど、基本計画の取り組みをそのまま転記しているだけでございますので、事業の主導性といいますか、例えば重要課題の1で安全安心な消費生活の確保とありまして、その施策の方向1-1の(1)が何々、という形のを転記しただけで、これは計画に基づいたものになりますので、主な取り組みというよりもこれは計画そのものをそのままここに載せています。最初に主な取り組みと載せてしまったのでまたそれを取っても分かりづらいなところで載せたということで、深い意味というか計画どおりのものを記載させていただいています。

和田会長： はい。よろしいですか？

石見委員： この主な取り組みのところは5年間動かないとかそういうことではないんでしょう？項目を増やしていくということもあるんでしょう？

山崎主幹： この計画をそのまま転記しただけですので、この計画は5年間生きてくるものなので、項目建てとしては、ここに盛り込んだものはそのままこの計画の主な取り組み欄にうつってきますので、5年間は変わらない。

和田会長： はい、了解いたしました。他にあるでしょうか？

堂坂委員： 最後に一つだけ。7ページの3-3の(1)の2なんですけど、取り組み実績の欄で、「研修実施」となっているんですけど、これだとPRなのか課題なのか分からない。「〇回実施した」とか、具体的に意識して、実施したのか課題なのか、わかりやすく処理してください。25年度のところに研修についての項目がないので、もし実施していないのであれば、ここに研修項目は入らないといけません。25年度になれば実施したんだろうと解釈するわけですね。

梶原委員： ここの表現の中で変えるかタイトルを変えるかどちらかですよね。しっかりするにはやはりタイトルを工夫するほうがいいのかと。実績と今後の課題というのは違うという考え方でタイトルをつくるか、中身の文章をしっかり助詞までつけて分けるかどちらかになるんじゃないでしょうか。

鈴木副会長： やっぱり中身もはっきり書いていただきたい。

和田会長： そうするとここは2つ枠をつくると考えますかね。

鈴木副会長： でも分けづらいな。

堂坂委員： 文章をしっかり書いてもらえば一つの欄でも分かると思います。

石見委員： 回数とか書いてあれば実施したとわかるんですけど。なるべく体言止めしないで、何をしたとか書いてもらえばはっきりするでしょうけどね。

鈴木副会長： 事務連絡や事務メモではなくてアピールするために今回つくりますから、やっぱり丁寧に書くことが重要だと思うんですね。

和田会長： それでは記入要領を添付するというので、ではよろしいでしょうか。

石見委員： 検証・評価というのは難しいと思うんですけど、頑張ってください。

和田会長： やはり次年度になってから依頼して検証表が上がってくるということですね？

山崎主幹： はい、今回皆様からいろいろご意見をいただきましたので、照会を

かけるときのうちの考え方がより固まったように思います。投げかけをする側がきっちりその辺をどういう意図を持ってどういうものが欲しいのかというのが曖昧ですと多分書くほうも書きにくいかと思しますので、今回皆様からいろいろとご意見いただいたことが照会をかけるとき、ひいては返ってきた評価がとてもわかりやすいものになったかと思えます。とても参考になりました。どうもありがとうございました。

和田会長： ではその他の議題は？

福田主査： 事務局はありません。

和田会長： 報告事項はあるでしょうか？

福田主査： 事務局から報告事項がございます。本日はご覧のとおり傍聴者はおりませんでしたので、報告させていただきます。それとこの審議会が 6 月 7 日で任期が終わりになります。それで公募枠につきましては 4 月 1 日号の広報に掲載予定でございますので、またご推薦なりご応募していただけたらと思えますのでよろしく願いいたします。では本日の会議要録については事務局でまた取りまとめをさせていただきます、フォーマットと一緒に各委員さんに送付させていただきますので、またその修正等ございましたらご連絡をいただきたいという風に思っております。また第 2 回の会議要録についてのご署名なんですが、順番で回ってまして、高橋委員さんをお願いしたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

和田会長： では確認いたします 6 月 7 日で任期切れということですが、この評価については前回の審議会では 6 月 7 日以前に開催して今期でこのメンバーで行うということでしたので、事務的な、依頼も含めて、スケジュールとも兼ね合わせないといけませんので。

山崎主幹： 前回は取りまとめに早く 5 月の末ぐらいかなという話をしたかと思うんですが、さらに今回お話をいただく中に出てきたままのものをそのまま転載できればそれに越したことはないんですが、やはりどうしても文末をそろえとか、内容をそろえとなりますと、出てきたものを所管課とやり取りをした上でなおかつセンターがそれを項目ごとに評価をしますと、ちょっと 5 月の末というのはかなり厳しいところはあるかと思えますので、現在の任期の委員さん方には基本計画のありかたについて答申をいただいたのと、今年度については評価の方法についてご意見をいただいたということで、一度切らせていただいて新しい任期の委員さんに 24 年度の評価というのをさせていただけたらという風に考えております。

和田会長： そうしますと、評価方法についてきちっと議論し、次回の審議会に委ねると。それでこの審議会の役割は終える。とは言え、今後も見守っていただき、審議会にご意見をいただくことは変わらないと思えます。本当に任期の間は、お世話になりました。皆様のご協力ももちまして、評価の方法まできちっとできました。

和田会長： きちっと事務局が汲んで良いフォーマットができるために最後のチェックをお願いいたします。ではこれで審議会を終了とさせていただきます。

—閉会—

会議録署名人

平成 25 年 5 月 10 日 高橋 巍